

# 議員の意見交換会を開催！

# 特集

## 救急救命センターへ進む今こそ、 眼を向けた体制と説明を求めて～



▲山本海南病院長から説明

市議会では、海南病院長と意見交換会を6月定例会会期中の6月18日市民ホールで行いましたので報告します。

病院長から「医療制度改革と海南病院のビジョンについて」と題し、2025年(団塊の世代が後期高齢者になるといわれる年度)に向け今後の医療政策は、昨年8月出された「社会保障制度改革国民会議」に基づき展開していくとし、この中で重点課題は、医療機関の機能分化、機能強化と連携、在宅医療にあり、診療報酬の改定がなされている。院長は国の医療施策に危機感を抱いていると説明がありました。

その後、海南病院の現況・施設整備などの報告があり引き続き意見交換会に進みました。

なお、当日は、海南病院から山本病院長・関谷副院長・杉浦薬剤部長・川添事務部長・江口企画室長が出席し、議員以外に市長・副市長・教育長・民生部長・健康推進課長も出席しました。

**Q** 救急車の受け入れ体制の実態は？  
年間8千台。同時受け入れ5台と聞かすが実際は、施設的な装備はあっても、医師不足・看護師不足もあり同時に5台の受け入れは困難なのではないか？

**A** 救急車の同時受け入れは最大8台が可能です。  
時間内は救急専門医2名・救命救急センター常駐医3名います。休日・時間外は救命救急センターに医師6名を配置し、他に集中治療・周産期医療など4名います。365日、時間外に医師10名を院内に配置できていますので、医師不足が叫ばれる中、相当の医師確保が出来ていると考えています。

また看護師は、救命救急センターに約30名を超える人員を配置しています。

※年間5千台から8千台受け入れとしたのは、海部医療圏の5消防出動が年間1万2千500台であり、津島市民病院・あま市民病院の受け入れで対応出来なかった台数を補うためである。

**Q** 医師・看護師の離職率が高いのでは？

**A** 医師については、キャリア形成の観点から大学を通じ異動があることをご理解ください。大学を中心として、何箇所かでキャリアを積むことで医師が育成されます。主治医交代の対応として、昨年1月に完全電子カルテ化したことで、患者さんの多くの情報を得ることができ、継続診療への影響は少なくなりました。

また、看護師は、どうしても大都市志向があり、海南病院の地理的な不利益はあるものの、離職率が決して高いわけはありません。昨年度の離職率が9.8%程度で、当病院と同様の急性期病院の離職率(全国平均)は12.5%程度となっています。